

御霊によって深みに

(1コリント2・10)

一、御霊の働きを思つ

最近、御霊の働きを思い、感謝していることがあります。12月4日(金)の『聖書愛読こよみ』の箇所は、箴言16章でした。16章1節に「人は心に計画を持つ。しかし、舌への答えは主から来る。」とあります。前半の「人は心に計画を持つ。」は、だれもが良く分かることばです。ですが、後半の「しかし、舌への答えは主から来る。」は、どういう意味なのだろうか、今ひとつ分からず思いめぐらしておりました。私の場合、週に最低でも5回のメッセージを、同仁学院の講話等も含めると、多いときは週に8回ほどのメッセージの原稿を作り、お話をしております。そうしますと、パソコンに向かってキーボードをたたき始めると、次から次に文章が出てくるのです。もちろん、立て板に水という意味ではありません。それなりに調べて、瞑想して、不適切な表現を書き改めることは数え切れないほど多くあります。それを経験して、「しかし、舌への答えは主から来る。」は、こういう形でも来るのかと思いました。そこに御霊の働きを覚えます。今年の指針聖句を思い起こします。1コリント2・10そ

れを、神は私たちに御霊によって啓示してくださいました。御霊はすべてのことを、神の深みさえも探られるからです。」を。私たちが困ったときに、助けを求めたときに、神は私たちの語ることばに答えを置いてくださる。私の場合は、パソコンに向かい文章を書く中で、答えを置いてくださることが多いように思われます。だれかに手紙を書く場合もそうです。「どのように書くか」と悩むことが多々あります。そういう時には、その方のために祈りつつ、パソコンのキーボードを打ち始めると書き終えたときに「あっ、そうなのか。こういうふう」に文章を書いたらいいのだな」と感じします。御霊の働きです。とは言いません、寝不足で疲れているときは、そのようなわけには行きませんが。御霊の働きのゆえに、神に感謝しております。

二、御霊の働きを知る

そういうわけで、父・子・聖霊なる神は、私共の身近なところで働いておられると言えます。それを知り、くり返して味わっているのが、私共信仰を授けた者たちであります。ではその信仰を、どうやって周囲の方に伝えて行くのでありましょうか。それは難しいことではありません。2章14節に、「生まれながらの人間は、神の御霊に属することを受け入れません。それらはその人には愚か

なことであり、理解することができないのです。御霊に属することは御霊によって判断するものだからです。」とあります。「生まれながらの人間」とは、

救われていない人のことです。私共の以前の姿です。罪という、神に背を向けている状態の人です。このような状態にあっては、自分が聖なる神に背を向けているなどとは思ってもよらないことです。そもそも、一人ひとりをさばかれる神を信じようとしません。ですから、人が犯している、聖なる神への罪を償おうと考えたキリストが、救い主どころか、愚かにさえ見えます。すなわち、「生まれながらの人間」が神に出会うこと、キリストに出会うことは不可能であると知ります。ですが、キリストを信じて救われる人は起こされるのです。あり得ないことが起こるので。どのようにして起こるのでしょうか。それは、ただひたすらに、イエス・キリストの十字架と復活の出来事を語り続けることです。もちろん、同じ言葉を機械的にオウム返しに語るという意味ではありません。「十字架のことば」を語り続けるなら、聖霊はそのことばを用いてくださり、突破口が開かれることがあります。そしてイエスさまを、神が遣わしてくださった救い主にして、神御自身でもあると信じると救われます。神に背を向けて生きてきた一人の罪人が救われることとなります。

三、御霊に導かれて生きる

先週、12月24日(木)のキャンドルラ

イト礼拝は、とても心が温まる礼拝となりました。恵まれました。出席した方に一言ずつ、あかしを語っていただいたからです。私は、皆さま方がそれぞれに御霊に導かれて歩んでおられると思えました。イエスさまを知り、イエスさまに心の王座に座っていただきますと、その時から御霊の導きが分かるようになります。御霊とは、聖霊であり、神です。

聖書の証言によれば、御霊の導きはキリストを信じてキリストのからだである教会に結び合わされることにより、知るようになります。今や、教会に属する私たちが当たり前のように経験している御霊の導きは、キリストを信じて新しく生まれ変わった人がいたいく、神の恵みです。キリストを信じて洗礼を受け、キリストのからだである教会に組み合わされますと、聖霊の働きにより、イエス様と同じ思いを持つようになります。イエスさまは、「だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負って、わたしに従って来なさい」とおっしゃいましたが、キリストを信じている私たちは、主が歩んだように歩みたいと願うようになります。それは、御霊なる神の働きです。